



# 天気図



地図上に天気を表す記号や等圧線、前線などをかきこんだ図を、天気図といいます。

## 天気図に使われる記号

【天気記号】※ここで示しているのは、日本で使われる天気記号です。

快晴	晴れ	くもり	雨	雪	みぞれ	あられ	ひょう	かみなり	きり

## 風向・風力

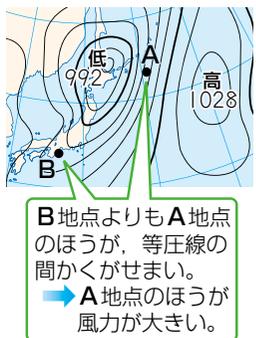
天気記号から出した矢の向きで風向を表し、矢羽の数で風力を表します。



## 【等圧線】

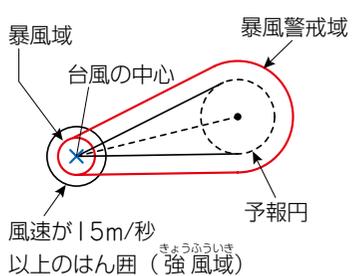
等圧線は、(1)のひたしい地点を(2)で結んだものです。ふつう、1000hPaを基準として4hPaごとに線を引き、20hPaごとに太くかきます。高気圧や低気圧があると、等圧線の中心に「高(またはH)」や「低(またはL)」と書き、中心の気圧(hPa)が書かれることもあります。

等圧線の間かくがせまいほど気圧の変化が(3)、風力が(4)なります。



## 【台風情報】

台風が近づくと、台風情報が発表されます。現在の台風の中心や風速25m/秒以上の(5)、さらに、今後台風の中心が来ると予想されるはん囲(6)や暴風域に入る可能性のある(7)などが示されます。



# 台風



台風は、熱帯で発生した(8)のうち、最大風速が(9)のものをいいます。台風の勢力は大きさ(風速15m/秒以上の風がふくはん囲)と強さ(最大風速)で表されます。

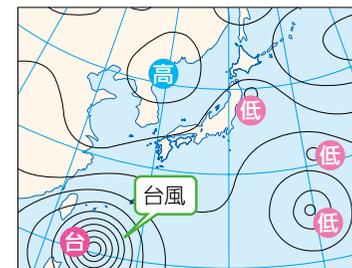
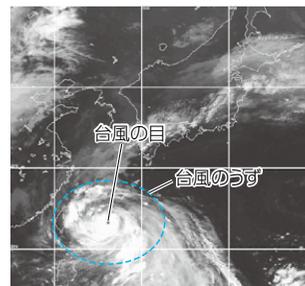
ほぼ1年中発生しますが、日本に近づくのは(10)の間です。風雨や高潮による被害をもたらしますが、夏の水不足の解消に役立つこともあります。



大きくゆれる街路樹

## 台風の構造

台風のうずの大きさは、半径約100~500kmで、高さは約10~15kmです。外側から中心に近づくほど風雨が(11)ますが、中心にある(12)は、風がほとんどなく晴れています。

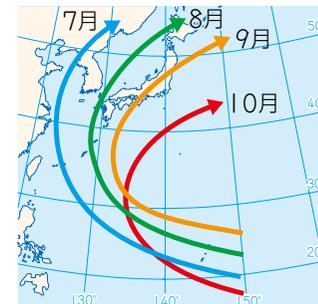


台風は低気圧なので、台風の中心に向かって反時計回りに風がふきこむのだ。台風の進行方向と風向が同じになる台風の右側では風が強く、進行方向と反対になる左側では風が弱くなるのである。

## 台風の進行方向

台風は、南の海上で発生すると、(13)のほうへ移動することが多く、発生する季節によっておんな進路が変わってきます。

天気は台風の動きによって変化し、台風が近づくと大雨が降り、強い風がふきます。



台風のおもな進路

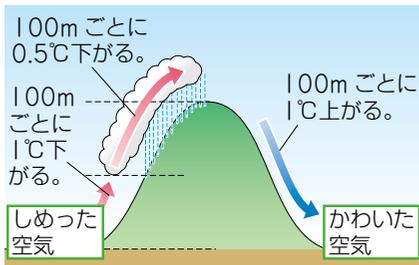
# フェーン現象



フェーン現象は、しめった空気が山の斜面にぶつかって上昇し、雲が発生して雨を降らせたのち、反対側の斜面を下降したときに、(14)現象です。

しめった空気が斜面を上昇するとき、はじめは100m高くなるごとに温度が1℃ずつ下がりますが、雲ができ始めると100m高くなるごとに(15)ずつしか下がりません。一方、反対の斜面を下降するときには、空気がかわいているため雲ができず、100m低くなるごとに(16)ずつ温度が上がります。このため、フェーン現象が起こります。

(17)がふくと、フェーン現象が起こりやすくなります。



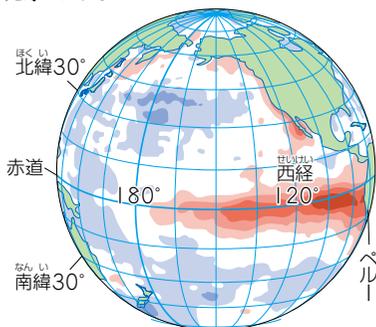
入試では、フェーン現象という名前を答えさせる問題が出題されるほか、計算問題としてもよく出題されるのだ。空気は、上昇すると温度が下がり、下降すると温度が上がることで、雲があるかどうかによって温度の変わり方が異なることを、しっかりおさえておくとよいのである。

# エルニーニョ現象



エルニーニョ現象は、太平洋上の赤道域の中央部から南米のペルーにかけての広い範囲で、(18)状態が1年ほど続く現象です。

エルニーニョ現象が起きた年は、日本では、夏は気温が低い日が続く(19)となり、冬はあたたかい日が続く(20)になるといわれています。



海面の水温の基準値(1961~1990年の30年の平均)との差(℃)  
-2 -1 0 1 2 3 4 5

## +プラスワン

エルニーニョ現象とは逆に、同じ海で海面水温が平年に比べて低い状態が続く現象を「ラニーニャ現象」といいます。ラニーニャ現象が起きた年は、日本では夏は気温が高く、冬は気温が低い日が続くことが多くなるといわれています。